

シラバス

2022年度版



鍼灸マッサージ東洋医療科 3年

学校法人 赤門宏志学院

赤門鍼灸柔整専門学校

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	高橋 はるか (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	按摩マッサージ指圧理論	曜日・時間	月曜日 10:50～

【授業概要・目標】 あん摩・マッサージ・指圧における基礎理論の知識の習得。 国家試験対策。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	あん摩の意義と沿革、 マッサージの意義と沿革
2	マッサージの意義と沿革、 指圧の意義と沿革
3	あま指の相違点、あまの共通する 手技の比較(軽擦法・揉捏法)
4	あまの共通する手技の比較 (圧迫法、叩打法、振せん法)
5	あん摩・マッサージ独自の手技、 指圧の基本手技とその作用
6	指圧の基本手技とその作用
7	あん摩・マッサージ・指圧の 生体作用の機転の一般
8	循環系におよぼす作用
9	神経系におよぼす作用
10	神経系におよぼす作用
11	皮膚・筋・関節・消化器・呼吸器・ 全身におよぼす作用
12	運動法の生体におよぼす作用
13	運動法の生体におよぼす作用、 あま指の治療効果
14	あん摩マッサージ指圧と東洋医学
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	あま指の応用分野(医療マッサージ、保 健マッサージ、産業マッサージ)
2	あま指の応用分野(スポーツマッサージ、 美容マッサージ、乳房マッサージ)
3	あん摩・マッサージ・指圧の応用分野 (結合織マッサージ、その他)
4	適応と禁忌、施術上の注意
5	国試過去問、電気療法
6	国試過去問、光線療法
7	国試過去問、温熱療法
8	国試過去問、温熱療法
9	国試過去問、温熱療法
10	国試過去問、水治療法
11	国試過去問、温泉療法
12	国試過去問、運動療法
13	国試過去問、寒冷療法
14	国試過去問
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験の点数
授業の進め方	板書、プリント
注意 (学生に望むこと)	予習で一通り教科書に目を通しておくこと。
テキスト・参考書	あん摩マッサージ指圧理論

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	國分 俊繁	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	臨床医学各論Ⅱ	曜日・時間	月曜日 13:10～

【授業概要・目標】
 施術者として必要な現代医学の立場からみた系統別疾患の診断及び治療に関する基礎的知識について教授し、これを施術に応用する能力と態度を修得させる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	整形外科的治療法
2	骨代謝疾患と骨腫瘍
3	筋・腱の疾患
4	形態異常について
5	脊椎疾患について
6	脳血管疾患
7	感染性疾患・脊髄疾患
8	基底核変性疾患
9	痴呆(認知症)疾患
10	筋疾患
11	運動ニューロン・末梢神経疾患
12	リウマチ・膠原病疾患
13	小児疾患
14	一般外科・麻酔科
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	婦人科疾患
2	皮膚科疾患
3	眼科・耳鼻科疾患
4	精神科疾患・心療内科
5	練習問題Ⅰ
6	練習問題Ⅱ
7	練習問題Ⅲ
8	練習問題Ⅳ
9	練習問題Ⅴ
10	練習問題Ⅵ
11	練習問題Ⅶ
12	練習問題Ⅷ
13	練習問題Ⅷ
14	練習問題Ⅹ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験による評価とする。
授業の進め方	板書・配布資料
注意 (学生に望むこと)	解剖学や生理学の学習内容がベースになるので復習しておくこと。
テキスト・参考書	テキスト:臨床医学各論

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	国分 壮一	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学臨床論 I	曜日・時間	月曜日 14:50～

【授業概要・目標】 西洋医学的に授業を進めるので、症状や病態を理解する。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	西洋医学的に病証を理解する
2	総論(授業の進め方)
3	1.頭痛
4	2.顔面痛 3.顔面麻痺
5	4.歯痛 5.眼精疲労 6.鼻閉・鼻汁
6	7.脱毛症 8.めまい 9.耳鳴りと難聴
7	10.咳嗽 11.喘息
8	12.胸痛
9	13.腹痛
10	14.悪心と嘔吐 15.便秘と下痢
11	16.月経異常
12	19.肩こり 20.頸肩腕痛(1)
13	19.肩こり 20.頸肩腕痛(2)
14	21.肩関節痛 22.上肢痛
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	17.排尿障害 18.インポテンツ
2	23.腰下肢痛(1)
3	23.腰下肢痛(2)
4	23.腰下肢痛(3)
5	24.膝痛(1)
6	24.膝痛(2)
7	25.運動麻痺
8	26.高血圧症 27.低血圧症
9	28.食欲不信 29.肥満 30.発熱
10	31.のぼせと冷え 32.不眠 33.疲労と倦怠
11	34.発疹
12	35.スポーツ医学(1)
13	35.スポーツ医学(2)
14	36.老年医学
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	出席・定期試験(2回実施)により評価する。
授業の進め方	配布するプリントとプレゼンテーションにより行う。
注意 (学生に望むこと)	配布プリントを予習して、授業中に理解できるように集中して聞いてほしい。 また復習が望ましい。
テキスト・参考書	指定された教科書を用いる。

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	川嶋 睦子	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学臨床論Ⅱ	曜日・時間	火曜日 9:10～

【授業概要・目標】

各項目の適応・不適応, 東洋医学的な考え方の鑑別方法について学習する。
 経絡経穴概論・東洋医学概論の復習しながら国家試験へ向けて理解を深める。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	治療総論
2	頭痛
3	顔面痛, 顔面麻痺
4	歯痛, 眼精疲労
5	鼻汁・鼻閉, 脱毛
6	めまい, 耳鳴りと難聴
7	咳嗽, 喘息
8	胸痛
9	腹痛
10	悪心と嘔吐
11	便秘と下痢
12	月経異常
13	排尿障害, インポテンツ
14	復習①
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	肩こり, 頸肩腕痛
2	肩関節痛, 上肢痛
3	腰下肢痛, 膝痛
4	運動麻痺, その他
5	高血圧, 低血圧
6	食欲不振
7	肥満
8	発熱
9	のぼせと冷え
10	不眠
11	疲労と倦怠
12	発疹, 小児の症状
13	老年医学における鍼灸療法
14	まとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	小テスト, 本試験, 出欠(授業態度)など
授業の進め方	履修内容順に講義を進行する。 ただし学生の能力に応じて変更有り。
注意 (学生に望むこと)	配布プリント・課題の予習をして授業に臨んでください。
テキスト・参考書	東洋医学臨床論・新版 東洋医学概論・新版 経絡経穴概論

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	安齋 昌弘	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組
科目名	鍼灸臨床実技Ⅱ	曜日・時間	火曜日 10:50～

【授業概要・目標】
 奇経の診察(四診)点と主治症を判断と治療、穴に基づき主治穴を単独または一対での治療原則の習得

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	奇経八脈について
2	督脈、陽蹻脈の作用・機能
3	任脈、陰蹻脈の作用・機能
4	衝脈、陰維脈の作用・機能
5	帯脈、陽維脈の作用・機能
6	奇経療法の原則
7	経脈主症状の治療原則に基づく実技
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	前期実技試験
14	経脈主症状の治療原則に基づく実技
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	各種配穴を活かし臨床実習
2	〃
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	後期試験
14	各種配穴を活かし臨床実習
15	評価点検

評価方法	授業への(出席、態度含)取り組みと筆記、実技試験との総合判定
授業の進め方	四診法の訓練と各種配穴を応用し学生同士の実習(個々に人への指導)
注意 (学生に望むこと)	正経、奇経共に学んだ事の復習と習得と鍼灸の練習。
テキスト・参考書	教科プリント他参考書、 正奇経統合理論とその臨床(山下詢 著)、 経別・奇経経筋療法(入江正 著)

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	長岡 靖彦	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年B組
科目名	鍼灸臨床実技Ⅱ	曜日・時間	火曜日 10:50～

【授業概要・目標】
 奇経の診察(四診)点と主治症を判断と治療、穴に基づき主治穴を単独または一対での治療原則の習得

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	奇経八脈について
2	督脈、陽蹻脈の作用・機能
3	任脈、陰蹻脈の作用・機能
4	衝脈、陰維脈の作用・機能
5	帯脈、陽維脈の作用・機能
6	奇経療法の原則
7	経脈主症状の治療原則に基づく実技
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	前期実技試験
14	経脈主症状の治療原則に基づく実技
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	各種配穴を活かし臨床実習
2	〃
3	〃
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	後期試験
14	各種配穴を活かし臨床実習
15	評価点検

評価方法	授業への(出席、態度含)取り組みと筆記、実技試験との総合判定
授業の進め方	四診法の訓練と各種配穴を応用し学生同士の実習(個々に人への指導)
注意 (学生に望むこと)	正経、奇経共に学んだ事の復習と習得と鍼灸の練習。
テキスト・参考書	教科プリント他参考書、 正奇経統合理論とその臨床(山下詢 著)、 経別・奇経経筋療法(入江正 著)

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	高橋 はるか (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組
科目名	鍼灸臨床実技 I	曜日・時間	火曜日 13:10～

【授業概要・目標】 ①症例を元に問診～的確な検査法の実施～病態把握～カルテのまとめ方 ②症例の復習、局所への鍼灸実技 問診・検査・実技・カルテ作成全てにおいて臨床できちんと使えることを目標とする。
--

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (授業内容説明など)
2	頸部症例①
3	頸部症例①-2
4	頸部症例②
5	頸部症例②-2
6	肩部症例①
7	肩部症例①-2
8	肩部症例②
9	肩部症例②-2
10	上肢症例①
11	上肢症例①-2
12	上肢症例②
13	上肢症例②-2
14	前期試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	腰部症例①
2	腰部症例①-2
3	腰部症例②
4	腰部症例②-2
5	下肢症例①
6	下肢症例①-2
7	下肢症例②
8	下肢症例②-2
9	膝症例①
10	膝症例①-2
11	膝症例②
12	膝症例②-2
13	まとめ
14	後期試験
15	評価点検

評価方法	実技試験、口頭発表、症例のまとめ
授業の進め方	授業概要の通り、①を実施した翌週は②を実施する。 自分に関わりのある病気、症例について調査、発表も授業内で行う予定。
注意 (学生に望むこと)	作成したカルテは木曜日までに提出すること。
テキスト・参考書	鍼灸臨床『問診・診察ハンドブック』(医道の日本社) 図解『鍼灸療法技術ガイド I・II』(文光堂)

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	宍戸 新一郎	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年B組
科目名	鍼灸臨床実技Ⅲ	曜日・時間	火曜日 13:10～

【授業概要・目標】

施術者として必要な施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。

はりきゅう治療の意義と役割、施術者の心構え、衛生管理、施術室の管理、リスク管理など

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	実技のオリエンテーション
2	はりきゅう実技復習Ⅰ
3	はりきゅう実技復習Ⅱ
4	腰部疾患に対する実技訓練Ⅰ
5	腰部疾患に対する実技訓練Ⅱ
6	肩関節疾患に対する実技訓練Ⅰ
7	肩関節疾患に対する実技訓練Ⅱ
8	頸上肢痛に対する実技訓練Ⅰ
9	頸上肢痛に対する実技訓練Ⅱ
10	膝関節疾患に対する実技訓練Ⅰ
11	膝関節疾患に対する実技訓練Ⅱ
12	実技練習
13	実技練習
14	実技練習
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	前期の復習
2	はりきゅう実技試験訓練
3	はりきゅう実技試験訓練
4	はりきゅう実技試験訓練
5	はりきゅう実技試験訓練
6	特殊鍼法
7	特殊鍼法
8	特殊鍼法
9	はりきゅう応用治療実技
10	はりきゅう応用治療実技
11	はりきゅう応用治療実技
12	はりきゅう応用治療実技
13	はりきゅう応用治療実技
14	はりきゅう応用治療実技
15	評価点検

評価方法	出席・定期試験により評価する。
授業の進め方	総合臨床治療技術の習得および認定実技試験の合格を目指す。
注意 (学生に望むこと)	施術者・患者役となるので自己健康管理に留意すること。
テキスト・参考書	なし

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	萱場 公雄	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	関係法規	曜日・時間	火曜日 14:50～

【授業概要・目標】
 保健医療福祉制度の中におけるあん摩マッサージ指圧師、はり師及びきゆう師の位置付けや職業倫理について理解を深める。生涯を通じて、健康や障害の状況に応じて社会資源を活用できるように必要な知識と基礎的な能力を養うことを目標とする。
 医療法、医師法等の医事法の体系の中での「あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律」、社会保障法、社会福祉関係法について学ぶ。

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	関係法規序論(1) 関係法規とは、関係法規の内容、 関係法規と医事法	1	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師等に関する法律(1)法律の沿革、法制定の目的、指定試験(登録)機関の指定
2	(2)法の概念、法の領域、法の存在形式	2	(2)指定試験(登録)機関が試験(登録)事務を行うときの規定の適用
3	(3)法秩序の構成原理、法の解釈	3	(3)免許、免許の取得と取消、名簿、登録事務、学校・養成施設、試験
4	医療法(1)医療法の概要、医療法の目的、医療提供の理念、医療関係者の責務	4	(4)施術者の業務、守秘義務等
5	(2)医療提供施設の種類と定義、類似名称の使用制限	5	(5)施術所に関する規制、広告の制限、免許取消と業務停止
6	(3)医療提供施設の要件、法定人員、構造設備の基準等	6	(6)罰則、両罰規定
7	(4)医療提供施設の管理監督等、医業等の広告の制限	7	(7)医業類似行為とその規制、医業類似行為に関する判例
8	(5)医療計画、医療法人、地域医療連携推進法人、医療審議会、地域保健法	8	その他の関係法規(1)-予防衛生法規、薬事関係法規-感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律、予防接種法、医薬品医療機器等法、薬剤師法
9	医師法(1) 医師法の概要、資格法、臨床研修	9	(2)-保健衛生法規-健康増進法、母子保健法、母体保護法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律
10	医師法(2) 業務法、医業と医業類似行為	10	(3)-社会保障関係法規-健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法
11	医師法(3) 義務法、罰則、秘密保持義務	11	(4)-社会福祉関係法規-社会福祉法、生活保護法、老人福祉法、児童福祉法
12	他の医療関係者に関する法律(1) 歯科医師法、保健師助産師看護師法、診療放射線技師法、臨床検査技師等法	12	(5)障害者基本法、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律
13	(2)理学療法士及び作業療法士法、視能訓練士法、言語聴覚士法、臨床工学技士法	13	(6)身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、発達障害者支援法
14	(3)義肢装具士法、救急救命士法、歯科衛生士法、歯科技工士法、柔道整復師法 医師と他の医療関係者の業務の関係、名称独占と業務独占	14	個人情報保護法
◆	前期試験(試験監督は教職員・専任教員)	◆	後期試験(試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検	15	評価点検

評価方法	前期、後期の筆記試験による評価。前期試験は、記述問題と選択問題、後期試験は、国家試験に準じた選択問題とする。
授業の進め方	講義方式。医療六法の条文を読み理解する。
注意(学生に望むこと)	授業中の私語は厳禁とする。基本的なマナーを守ること。
テキスト・参考書	必要に応じて、レジユメを配布する。 医療六法令和3年版(必携) 前田和彦監修 関係法規 医歯薬出版

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	神成 有己	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組 →B組
科目名	按摩マッサージ指圧臨床実技	曜日・時間	水曜日 9:10～

【授業概要・目標】

臨床に際して必要な鑑別ポイントや適応・不適応を理解してもらい、臨床実習につなげられるようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション・治療総論(治療原則・治療計画)P2～6
2	各疾患の治療法: (腰下肢痛①)P46～48
3	各疾患の治療法: (腰下肢痛②)P49～51
4	各疾患の治療法:(膝痛)P51～53
5	各疾患の治療法: (運動麻痺)P53～56
6	各疾患の治療法: (高血圧症・低血圧症)P56～58
7	各疾患の治療法:(食欲不振) P59～60、(悪心と嘔吐)P32～33
8	各疾患の治療法: (便秘と下痢)P33～35
9	各疾患の治療法: (月経異常・排尿障害)P35～37
10	各疾患の治療法: (のぼせと冷え)P62～63
11	各疾患の治療法: (不眠・疲労と倦怠)P63～65
12	各疾患の治療法:(小児の症状)P66～67、 老年医学におけるあま指療法 P86～95
13	実技テスト
14	筆記テスト(国家試験より)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション・治療総論(治療原則・治療計画)P2～6
2	各疾患の治療法: (腰下肢痛①)P46～48
3	各疾患の治療法: (腰下肢痛②)P49～51
4	各疾患の治療法:(膝痛)P51～53
5	各疾患の治療法: (運動麻痺)P53～56
6	各疾患の治療法: (高血圧症・低血圧症)P56～58
7	各疾患の治療法:(食欲不振) P59～60、(悪心と嘔吐)P32～33
8	各疾患の治療法: (便秘と下痢)P33～35
9	各疾患の治療法: (月経異常・排尿障害)P35～37
10	各疾患の治療法: (のぼせと冷え)P62～63
11	各疾患の治療法: (不眠・疲労と倦怠)P63～65
12	各疾患の治療法:(小児の症状)P66～67、 老年医学におけるあま指療法 P86～95
13	実技テスト
14	筆記テスト(国家試験より)
15	評価点検

評価方法	実技は基礎実技が身につく、臨床実習の経験もあるため実際の治療のように問診などをしっかりとしながら、各人治療を組み立てて実践をしてもらいたい。
授業の進め方	授業のはじめは座学を行い、各症候についての理解を深めてもらう。 実技はなるべく長めにとりたい。
注意 (学生に望むこと)	体調管理をしっかりと行う事。実技は触った分だけ上手くなるので、授業といえども気を抜かず、実際の治療と思って気を引き締めてもらいたい。
テキスト・参考書	東洋医学臨床論(あん摩・マッサージ・指圧編)

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	宮田 正則	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年B組 →A組
科目名	按摩マッサージ指圧臨床実技	曜日・時間	水曜日 9:10～

【授業概要・目標】

各疾患の病態を把握・分析し、按摩マッサージ指圧手技を用いて、各疾患に対する治療法を学習させる。座学の時間は少なくし、出来るだけ実技の時間に振り向ける。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	治療原則、治療方針 等
2	各疾患の治療法…肩こり、頸肩腕痛
3	各疾患の治療法…肩関節痛、上肢痛
4	各疾患の治療法…頭痛
5	各疾患の治療法…顔面痛、顔面麻痺
6	各疾患の治療法…眼精疲労
7	各疾患の治療法…鼻閉、鼻汁
8	各疾患の治療法…めまい、耳鳴りと難聴
9	各疾患の治療法…咳嗽、喘息、喘鳴
10	各疾患の治療法…胸痛、腹痛
11	各疾患の治療法…スポーツ医学におけるあま指療法①
12	各疾患の治療法…スポーツ医学におけるあま指療法②
13	実技テスト
14	筆記テスト(国家試験より)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	治療原則、治療方針 等
2	各疾患の治療法…肩こり、頸肩腕痛
3	各疾患の治療法…肩関節痛、上肢痛
4	各疾患の治療法…頭痛
5	各疾患の治療法…顔面痛、顔面麻痺
6	各疾患の治療法…眼精疲労
7	各疾患の治療法…鼻閉、鼻汁
8	各疾患の治療法…めまい、耳鳴りと難聴
9	各疾患の治療法…咳嗽、喘息、喘鳴
10	各疾患の治療法…胸痛、腹痛
11	各疾患の治療法…スポーツ医学におけるあま指療法①
12	各疾患の治療法…スポーツ医学におけるあま指療法②
13	実技テスト
14	実技試験② (各疾患に対する施術)
15	評価点検

評価方法	施術態度、習熟度。
授業の進め方	一方通行にならないよう、対話形式で行う。
注意 (学生に望むこと)	触診して施術など、効果が分かるようにして、興味をわかせたい。
テキスト・参考書	テキスト・参考書、東洋医学臨床論

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	宍戸 新一郎	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年A組
科目名	鍼灸臨床実技Ⅲ	曜日・時間	水曜日 10:50～

【授業概要・目標】

施術者として必要な施術に関する知識と技能について教授し、施術を適切かつ効果的に行う能力と態度を修得させる。

はりきゅう治療の意義と役割、施術者の心構え、衛生管理、施術室の管理、リスク管理など

＜前期＞		＜後期＞	
回	授業テーマ	回	授業テーマ
1	実技のオリエンテーション	1	前期の復習
2	はりきゅう実技復習Ⅰ	2	はりきゅう実技試験訓練
3	はりきゅう実技復習Ⅱ	3	はりきゅう実技試験訓練
4	腰部疾患に対する実技訓練Ⅰ	4	はりきゅう実技試験訓練
5	腰部疾患に対する実技訓練Ⅱ	5	はりきゅう実技試験訓練
6	肩関節疾患に対する実技訓練Ⅰ	6	特殊鍼法
7	肩関節疾患に対する実技訓練Ⅱ	7	特殊鍼法
8	頸上肢痛に対する実技訓練Ⅰ	8	特殊鍼法
9	頸上肢痛に対する実技訓練Ⅱ	9	はりきゅう応用治療実技
10	膝関節疾患に対する実技訓練Ⅰ	10	はりきゅう応用治療実技
11	膝関節疾患に対する実技訓練Ⅱ	11	はりきゅう応用治療実技
12	実技練習	12	はりきゅう応用治療実技
13	実技練習	13	はりきゅう応用治療実技
14	実技練習	14	はりきゅう応用治療実技
15	評価点検	15	評価点検

評価方法	出席・定期試験により評価する。
授業の進め方	総合臨床治療技術の習得および認定実技試験の合格を目指す。
注意 (学生に望むこと)	施術者・患者役となるので自己健康管理に留意すること。
テキスト・参考書	なし

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年B組
科目名	鍼灸臨床実技 I	曜日・時間	水曜日 10:50～

【授業概要・目標】
 臨床の現場に入ったときに即戦力となるための、臨床能力を身に付けることを目標とする。症例を通して患者様との接遇・コミュニケーション・症状などの情報を引き出す会話術と、検査法を通して解剖学的・神経学的異常を発見でき病名を導き出すため思考力・発想力を訓練する。共に、東洋医学として論理的に症を判断し・治療原則を考察し・根拠のある治療方法を導き出し、治療を行う。治療後、予後の説明と、日常生活上のアドバイスをすることが出来るようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (授業内容説明など)
2	頸部症例
3	頸部症例
4	頸部症例
5	頸部症例
6	頸部症例
7	肩部症例
8	肩部症例
9	肩部症例
10	肩部症例
11	上肢症例
12	上肢症例
13	上肢症例
14	前期試験
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	腰部症例 実技試験準備
2	腰部症例 実技試験準備
3	腰部症例 実技試験準備
4	腰部症例 実技試験準備
5	下肢症例 実技試験準備
6	下肢症例 実技試験準備
7	下肢症例 実技試験準備
8	下肢症例 実技試験準備
9	膝症例
10	膝症例
11	膝症例
12	膝症例
13	試験準備
14	後期試験
15	評価点検

評価方法	症例の患者役の症状を演じられるか？ 正確な診断・治療・接遇が出来るか？
授業の進め方	コーチングテクニックを用いて授業に望み、生徒の自主的な能力向上意欲の惹起に努める。
注意 (学生に望むこと)	自分で考え、発想し、決断し、修正できるように！！
テキスト・参考書	症例集 111 技 執、 経 算 1 材 資 料

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

ノリハロシ

延岡赤門鍼灸柔整専門学校

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	吉本 豊 (実務経験のある教員)	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学臨床Ⅲ	曜日・時間	水曜日 13:10～

【授業概要・目標】
 臨床の現場に入ったときに即戦力となるための、臨床能力を身に付けることを目標とする。東洋医学を判りやすく解釈する事、運動の基礎を理解する事、全体症状の理解深める事で、患者さんの症状を広範囲から思考・判断出来るようになる事。共に、スポーツ外傷・スポーツ障害・身体障害・精神障害に対し、根拠のある治療方法を導き出し、治療を行う。治療後、予後の説明と、日常生活上のアドバイスをすることが出来るようにする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション (授業内容説明など)
2	Chapter 2 1節
3	Chapter 2 2節
4	Chapter 2 3節
5	Chapter 2 4節
6	Chapter 2 5節
7	Chapter 2 6節
8	Chapter 2 7節
9	Chapter 2 8節
10	Chapter 2 9節
11	Chapter 2 10節
12	Chapter 2 11節
13	Chapter 2 12・13節
14	前期試験 準備
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	Chapter 3 1節 1.2
2	Chapter 3 1節 3.4
3	Chapter 3 1節 5.6
4	Chapter 3 1節 7.8
5	Chapter 3 1節 9.10
6	Chapter 3 1節 11.12
7	Chapter 3 1節 13.14
8	Chapter 4 1節 1.2
9	Chapter 4 1節 3.4
10	Chapter 4 1節 5.6
11	Chapter 4 2節 1.2.3
12	Chapter 4 2節 1.2.3
13	Chapter 4 3節 1.2
14	後期試験 準備
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	スポーツ障害・身体障害を科学的観念を用い、正確な全体症状を診断・治療・接遇が出来るか？
授業の進め方	コーチングテクニックを用いて授業に望み、生徒の自主的な能力向上意欲の惹起に努める。
注意 (学生に望むこと)	自分で考え、発想し、決断し、修正できるように！！
テキスト・参考書	スポーツ東洋療法

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	長岡 靖彦	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	鍼灸理論Ⅱ(半期)	曜日・時間	前期) 水曜日 14:50～

【授業概要・目標】
 2学年までに修得した基礎分野の科目について、要点を確認し鍼灸臨床に応用できるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	基礎分野の要点確認(1) 医療概論、衛生学・公衆衛生学 1/2
3	基礎分野の要点確認(2) 医療概論、衛生学・公衆衛生学 2/2
4	基礎分野の要点確認(3) 解剖学 1/3
5	基礎分野の要点確認(4) 解剖学 2/3
6	基礎分野の要点確認(5) 解剖学 3/3
7	基礎分野の要点確認(6) 生理学 1/3
8	基礎分野の要点確認(7) 生理学 2/3
9	基礎分野の要点確認(8) 生理学 3/3
10	基礎分野の要点確認(9) 病理学概論 1/2
11	基礎分野の要点確認(10) 病理学概論 2/2
12	専門基礎分野の要点確認(1) 臨床医学総論1/3
13	専門基礎分野の要点確認(2) 臨床医学総論2/3
14	専門基礎分野の要点確認(3) 臨床医学総論3/3
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検 前期復習

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
◆	
15	

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	問題演習を中心として行う。
注意 (学生に望むこと)	広い範囲の要点の確認を行なうため、予習よりも効率的な復習を心掛けて欲しい。
テキスト・参考書	各科目の教科書

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	赤松 千鶴	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	リハビリテーション医学	曜日・時間	木曜日 9:10～

【授業概要・目標】

国家試験合格および臨床の現場で最低限に必要なリハビリテーション医学の基礎知識を習得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	リハビリテーションを支える基本理念
2	障害と生活のとらえ方
3	リハビリテーションの分野、リハビリテーション医学の概念
4	リハビリテーション医学とチームアプローチ、リハビリテーションの進め方
5	地域ケアと地域リハビリテーション
6	心身機能・身体構造の評価 (ROM-I)
7	心身機能・身体構造の評価 (ROM-II)
8	心身機能・身体構造の評価 (MMT)
9	心身機能・身体構造の評価 (ADL)
10	心身機能・身体構造の評価 (歩行)
11	参加の評価、合併症(廃用症候群)の評価
12	運動麻痺の評価、運動年齢テスト
13	失行失認テスト(高次脳機能評価)
14	心理的評価、摂食・嚥下障害の評価
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	理学療法 (I・II)
2	作業療法、言語聴覚療法
3	装具療法と義肢、リハビリテーション看護
4	摂食嚥下障害、ソーシャルワーク、リハビリテーション工学
5	脳卒中のリハビリテーション (I)
6	脳卒中のリハビリテーション (II)
7	脊髄損傷のリハビリテーション (I)
8	脊髄損傷のリハビリテーション (II)
9	切断のリハビリテーション (I)
10	切断のリハビリテーション (II)
11	小児のリハビリテーション
12	骨関節疾患のリハビリテーション
13	関節リウマチ、末梢神経障害、パーキンソン病のリハビリテーション
14	呼吸器疾患、心疾患のリハビリテーション
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	筆記試験
授業の進め方	講義形式。テーマごとに国家試験問題の演習を行う。
注意 (学生に望むこと)	1・2年次に履修した解剖学、生理学、基礎医学等の知識を確認しながら授業を進める。修得した内容を自分の言葉で説明できるようにすること。
テキスト・参考書	東洋療法学校協会編『リハビリテーション医学(第4版)』医歯薬出版 適宜プリントを配布する。

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	長岡 靖彦	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学応用概論	曜日・時間	木曜日 10:50～

【授業概要・目標】
 あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゆう師として必要な基本的知識を確認し、総合的な判断ができるようになる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	オリエンテーション
2	専門分野の要点確認(1) 東洋医学概論 1/4
3	専門分野の要点確認(2) 東洋医学概論 2/4
4	専門分野の要点確認(3) 東洋医学概論 3/4
5	専門分野の要点確認(4) 東洋医学概論 4/4
6	専門分野の要点確認(5) 経絡経穴概論 1/4
7	専門分野の要点確認(6) 経絡経穴概論 2/4
8	専門分野の要点確認(7) 経絡経穴概論 3/4
9	専門分野の要点確認(8) 経絡経穴概論 4/4
10	基礎分野の要点確認(1) 臨床医学各論 1/4
11	基礎分野の要点確認(2) 臨床医学各論 2/4
12	基礎分野の要点確認(3) 臨床医学各論 3/4
13	基礎分野の要点確認(1) 臨床医学各論 4/4
14	前期復習(1)
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検 前期復習(2)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	基礎・専門基礎分野の要点確認(1)
2	基礎・専門基礎分野の要点確認(2)
3	基礎・専門基礎分野の要点確認(3)
4	基礎・専門基礎分野の要点確認(4)
5	基礎・専門基礎分野の要点確認(5)
6	基礎・専門基礎分野の要点確認(6)
7	基礎・専門基礎分野の要点確認(7)
8	基礎・専門基礎分野の要点確認(8)
9	基礎・専門基礎分野の要点確認(9)
10	基礎・専門基礎分野の要点確認(10)
11	基礎・専門基礎分野の要点確認(11)
12	基礎・専門基礎分野の要点確認(12)
13	基礎・専門基礎分野の要点確認(13)
14	基礎・専門基礎分野の要点確認(14)
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検 基礎・専門基礎分野の要点確認(15)

評価方法	定期試験の結果をもってその学期の評価とする。
授業の進め方	問題演習を中心として行う。
注意 (学生に望むこと)	復習(曖昧な記憶を教科書で補完すること)を効率的に行って欲しい。
テキスト・参考書	各科目の教科書

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	専任教員	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	臨床実習Ⅳ	曜日・時間	木・金曜日 3・4時限

【授業概要・目標】

①患者と適切なコミュニケーションがとれる。②施術準備(補助)ができる。③基本的な事項について診療録に記載ができる。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習前授業(Ⅰ)
2	臨床実習前授業(Ⅱ)
3	臨床実習(1)
4	臨床実習(2)
5	臨床実習(3)
6	臨床実習(4)
7	臨床実習(5)
8	臨床実習(6)
9	臨床実習(7)
10	臨床実習(8)
11	臨床実習(9)
12	臨床実習(10)
13	臨床実習(11)
14	臨床実習(12)
◆	—
15	臨床実習(13)

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	臨床実習(14)
2	臨床実習(15)
3	臨床実習(16)
4	臨床実習(17)
5	臨床実習(18)
6	臨床実習(19)
7	臨床実習(20)
8	臨床実習(21)
9	臨床実習(22)
10	臨床実習(23)
11	—
12	—
13	—
14	—
◆	—
15	—

評価方法	知識の習得・身だしなみ・参加意欲などを総合的に評価する。
授業の進め方	臨床に必要な知識の習得、施術見学、環境整備、施術準備(補助)などを中心に行う。
注意 (学生に望むこと)	積極的に実習に参加してもらいたい。
テキスト・参考書	なし

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	浦山 久嗣	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	東洋医学各論Ⅱ	曜日・時間	金曜日 9:10～

【授業概要・目標】

施術者として必要な東洋医学の基本概念、診察法および治療法の概要を理解する。
東洋医学の知識や技術を総合的に運用し、施術を適切かつ効果的に行う能力を修得する。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	ガイダンス、東洋医学の特徴
2	陰陽五行思想
3	気血・経絡
4	蔵象Ⅰ(肝・心・脾)
5	蔵象Ⅱ(肺・腎・三焦・相互関係)
6	舌診
7	問診
8	切経・脈状診
9	八綱弁証
10	気血津液弁証・病邪弁証
11	臓腑弁証Ⅰ(肝・心・脾)
12	臓腑弁証Ⅱ(肺・腎)
13	外感温熱弁証
14	論治
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	鍼灸医学史Ⅰ(医療と人類)
2	鍼灸医学史Ⅱ(古代・中世中国)
3	鍼灸医学史Ⅲ(古代・中世日本)
4	鍼灸医学史Ⅳ(近世中国)
5	鍼灸医学史Ⅴ(近世日本)
6	鍼灸医学史Ⅵ(近現代)
7	病因病機学
8	脈診学Ⅰ(六部定位脈診)
9	脈診学Ⅱ(四部脈診)
10	経絡学総論
11	腧穴学総論
12	選穴・処方学
13	取穴・定穴法
14	鍼灸手技学
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	期末試験の成績を主とし、普段の授業態度等を加味して評価する。
授業の進め方	指定した教科書を主とし、不足分はレジュメを以て補う。
注意 (学生に望むこと)	予め授業分の内容は教科書に目を通しておくこと。 授業後は復習すること。
テキスト・参考書	『新版・東洋医学概論』(医道の日本社2015年刊) 『これからの「脈診」の話をしよう!!』(たにぐち書店2018年刊)

2022年 赤門鍼灸柔整専門学校 シラバス

担当者名	渡部 正司	学科・年	鍼灸マッサージ東洋医療科 3年
科目名	鍼灸理論 I	曜日・時間	金曜日 10:50～

【授業概要・目標】
 国試レベルの基礎応用と対応力を身につける。また、これまでの研究で明らかになっていることを紹介し、「痛み」を通して鍼灸の治効機序を学習していく。鍼灸の治効機序についてメディカルスタッフと議論できることを目標とする。

＜前期＞	
回	授業テーマ
1	概論
2	概論 鍼灸の定義
3	鍼の基礎知識 鍼灸の有効性と安全性
4	鍼の基礎知識 古代九鍼
5	刺鍼の方式と術式 軸索反射
6	特殊鍼法 神経機構
7	灸の基礎知識・灸術の種類
8	鍼灸の臨床応用
9	リスク管理
10	関連学説 ストレス学説 他
11	関連学説 ゲートコントロール説 他
12	鍼灸治効の基礎 局所の反応
13	鍼灸治効の基礎 治療的作用
14	鍼灸治効の基礎 痛み感覚の受容と伝導
◆	前期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

＜後期＞	
回	授業テーマ
1	鍼灸治効の基礎 温度・触圧感覚の受容と伝達
2	鍼灸治効の基礎 筋の伸長刺激および筋の振動の受容と伝導
3	鍼灸治効の基礎 鍼灸刺激と反射
4	鍼灸治効の基礎 鍼鎮痛
5	鍼灸療法的一般治効理論 自律神経
6	鍼灸療法的一般治効理論 脊髄反射
7	鍼灸療法的一般治効理論 上脊髄反射
8	鍼灸療法的一般治効理論 ポリモーダル受容器
9	鍼灸療法的一般治効理論 鍼通電
10	鍼灸療法的一般治効理論 トリガーポイント
11	鍼灸療法的一般治効理論 各種メディエータ
12	鍼灸療法的一般治効理論 生体防御機構
13	鍼灸療法的一般治効理論 鎮痛まとめ
14	痛覚、体性－自律反射のまとめ
◆	後期試験 (試験監督は教職員・専任教員)
15	評価点検

評価方法	定期試験、国試演習、出席
授業の進め方	教科書を補足するスライドを用いて解説する。
注意 (学生に望むこと)	鍼灸治効機序は、生理学が主体となっているため、生理学の復習を重ねて、基礎を身につけて下さい。
テキスト・参考書	東洋療法学校協会編：はりきゆう理論, 医歯薬出版, 2002. 東洋療法学校協会編：生理学, 第3版, 医歯薬出版, 2014.